

南アフリカ／ムムシ・マイマネ

——躍進続ける若き野党党首——

佐藤千鶴子

ムムシ・マイマネ (Mmusi Maimane) は、2011年の地方議会選挙で民主同盟 (DA) のジョハネスバーグ市長候補として南アフリカ政治の舞台に登場した。当時30歳、ほぼ無名の存在であり、選挙ではアフリカ民族会議 (ANC) に敗れて市長にはなれなかった。それからわずか4年。マイマネは広報担当を経て、DA党首に選出されるにいたった。無名の存在から、短期間に国政の最大野党DAの頂点に立つことになったマイマネとはどのような人物なのだろうか。

●ソウェトのオバマ

マイマネは、南アフリカ最大の旧黒人都市居住区 (タウンシップ) ソウェトでツワナ人の父とコーサ人の母の間に生まれた。両親とも旧ホームランド出身の移民労働者であり、熱心なカトリック教徒であった。マイマネもカトリックとして育ったが、十代半ばに福音派へと信仰を転換している。

マイマネが育った家庭は決して裕福ではなかった。しかし、小学校から比較的恵まれた環境で教育を受け、最終的に神学と行政学の修士号を取得している。政治家に転向する前はビジネス・コンサルタントとして生計を立てながら、福音派教会の牧師として説教や慈善活動を行っていた。ソウェト出身者らしく11の公用語のうち7言語に堪能で、その演説技術は「ソウェトのオバマ」との呼び名がつくほどである。

●ジラの意向

マイマネが政治家として短期間に大躍進を遂げた背景には、ジラ (H. Zille) 前党首の意向が強く関わっていた。アパルトヘイト時代の議会内野党に起源を持つDAは、もともと党首脳部の大半を白人が占め、支持基盤も白人やカラード (混血) であった。それゆえ長い間「白人の政党」とみなされてきたが、それでは人口の8割を占める黒人層への支持拡大は望めない。「白人が主導権を握る政党」というイメージを払拭するため、若い黒人を党の重要ポストに積極的に登用し



(提供) クリエイティブコモンズ (photo by The Democratic Alliance)

始めたのが、2007年に党首に就任したジラだった。マイマネを広報担当に抜擢したのもジラである。

この方針は支持者拡大に貢献し、国会選挙においてDAは12.37% (2004年) から16.66% (2009年)、そして22.23% (2014年) へと得票率を増加させた。

●マイマネの真価

政治家としての経験年数の浅いマイマネがDA党首まで上り詰めた背後にはジラが見え隠れするため、マイマネには「操り人形」というレッテルがつきまとう。西ケープ州知事を務めるジラは、党首の座を退いた後も党内で大きな影響力を持っている。だが、ツイッターを通じたジラの発言には物議を醸す内容も多く、2017年3月には植民地支配を肯定的に捉えるツイートが批判を浴び、最終的にジラは党の意思決定構造から外されることになった。首脳部の多人種化を進めてきたものの、DA所属国会議員の6割はまだまだ白人であり、党员によるフェイスブックでの人種差別的な投稿がメディアで取り上げられることもある。

マイマネは、ANCに不満を持つ黒人有権者の支持を得られるような政党へとDAをさらに変革していくことができるだろうか。ジラという後ろ盾を失った今こそ、マイマネの真価が問われることになるだろう。

(さとう ちづこ／アジア経済研究所 アフリカ研究グループ)